

図版説明

1. 1981年に確認された秋まきコムギの異常枯死の状況（胆振支庁管内追分町）
2. 5月上旬の発病初期の病徴（下位葉身の不鮮明な条斑）
3. 根部の発病状況（左が健全株）
4. 葉身の典型的病徴
5. 葉鞘の条斑症状
5. 多発圃場における発病状況（ずり込みが見られる）
7. オーチャードグラス条斑病の病徴
8. 発病程度別に収穫したコムギ粒の状況（各100粒の比較）
0：健全株，1：止葉以外の葉が発病している茎，2：全ての葉が発病している茎，
3：発病が著しく穂がズリ込んでいる茎
9. 発病葉身の通導組織内に確認される条斑病菌
10. 条斑病菌接種コムギ粒を用いた殺菌剤の効力検定
HgCl₂ 1,000倍では，コムギ種子内部に存在する病原菌に対する効果が不十分のため，菌糸の伸長が見られる。
11. 罹病麦稈に生成させる条斑病菌のスプロドキア
12. 1株内の発病状況（発病が激しい茎は枯死脱落する）
13. 寒天拡大法による殺菌剤の効力検定
チウラム・ベノミル剤の検定状況：40,000倍まで分生子発芽阻止円が見られる。
14. 発病により早期枯死した発病株の未熟な穂
15. 転換畑コムギ圃場における湛水処理の実施状況

1



2



3



7



4



5



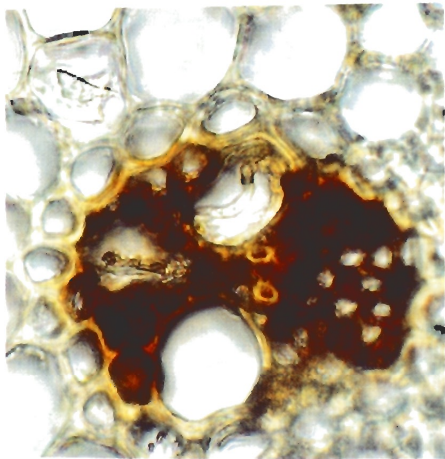
6



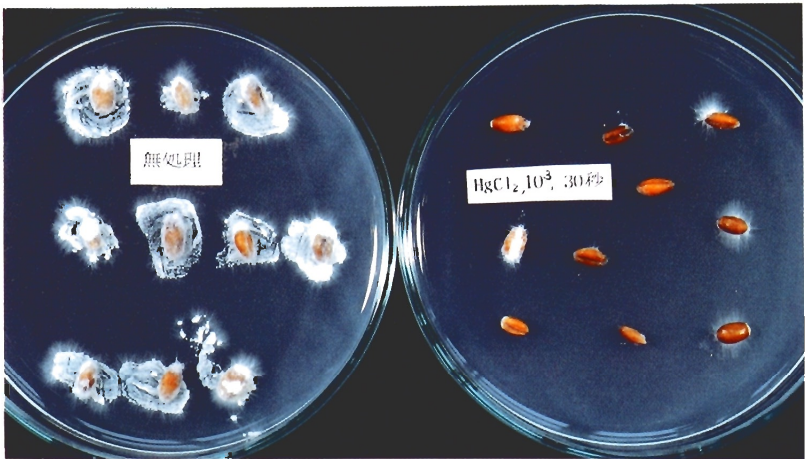
8



9



10



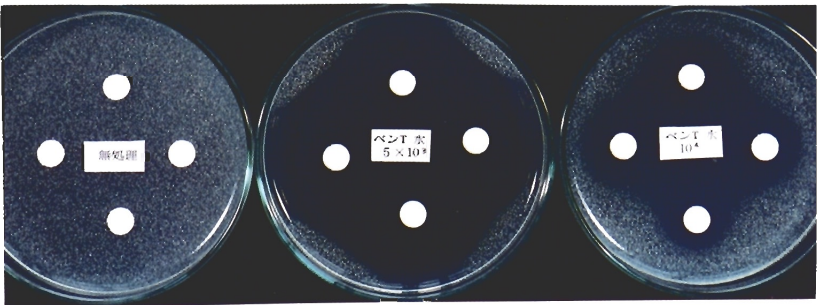
11



12



13



14



15

